

「台湾有事」を起こさせない・12月12日院内集会

——北東アジアにおける平和の準備を——

＊2023年12月12日(火)14時～16時

＊衆議院第一議員会館国際会議場（13時半より議員会館入り口で入館カード配布）

ウクライナ戦争が始まった前後から、日本では「台湾有事」（中国の武力侵攻）があたかも起こるのが前提のような議論が行われています。そして南西諸島では、自衛隊の基地建設やミサイル配備が住民の合意もなく進められています。万が一そのような事態になれば、かつて沖縄を本土の「捨て石」にした「沖縄戦」の再現です。そんなことは決して起こさせてはなりません。11月23日、沖縄では「再び戦場にさせない」県民集会が開かれ、約1万人が集まり、平和と対話を訴えました。東京でも沖縄の声を聞き、所謂「台湾有事」問題の本質を考えたいと思います。

1, 沖縄からの訴え——11・23県民集会を踏まえて

具志堅隆松さん（沖縄を再び戦場にさせない県民の会共同代表、ガマフヤー代表）

2, 「台湾有事」の構造——米軍の新戦略を読む

石井暁さん（共同通信記者）

3, 台湾の中の「台湾有事」論——総統選を前に

本田善彦さん（ジャーナリスト、在台北、オンライン）

4, 各党議員からの発言 討論

主催：「台湾有事」を起こさせない・沖縄対話プロジェクト
沖縄を再び戦場にさせない県民の会

連絡先：070-5558-0193 岡本

＊「台湾有事」を起こさせない・沖縄対話プロジェクトは、加熱する「台湾有事」論に危機感をもった沖縄内外の有志13名が呼びかけて2022年10月に発足しました。呼びかけ人は新川明・元沖縄タイムス社長、岡本厚・前岩波書店社長、我部政明・琉球大学名誉教授、高嶺朝一・元琉球新報社長、前泊博盛・沖縄国際大学教授などです。対話を通じて平和を作り出していこうとする試みで、これまで、2023年2月に第一回シンポジウム（稲嶺恵一元沖縄県知事の講演、台湾の民進党系、国民党系識者と沖縄の識者の対話）、4月に第二回シンポジウム（少数派に属する台湾の若手ジャーナリスト3名と沖縄の識者の対話）、9月に第三回シンポジウム（宮本雄二元中国大使の講演、大陸上海の識者2名と沖縄の識者の対話）を行ってきました。本田善彦氏は台北在住のジャーナリストで呼びかけ人の一人。

＊「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」は、政治的立場や思想信条の違いを超えて、沖縄を戦場にさせたくないとする沖縄県民の組織で、70団体が賛同して2023年9月に発足。11月23日の県民大集会を成功させました。共同代表は具志堅隆松・ガマフヤー代表、瑞慶覧長敏・元南城市長の両氏。